

序 文

「別府史談」第七号の発刊にあたり、会員の皆様に謹んでお知らせいたします。

去る五月に別府史談会理事長の藤内喜六先生がご逝去されました。副会長の阿部巖先生のご逝去につづき藤内理事長を失ったことは、当会はもとより郷土の歴史研究にとつてもたいへんな痛手であると思ひます。

先生は、学生時代より考古学に情熱を燃やされ、戦後に行なわれました県下の発掘調査には数多く参加され、県考古学の創世期に貢献されました。また、中学校に奉職されてからも実証的な立場で郷土の歴史を見なおされ、常に高い識見と包容力で後進の指導にあたられました。

先生は、別府市の文化財調査委員会の創設に尽力され、その中心となって活躍されました。その間、郷土の古代遺蹟の発掘と文書史料の整理に努められ、それらの成果を駆使された郷土史の研究は高く評価されています。

また、郷土の歴史研究者の幅を広げ、愛郷心のもとに郷土の発展に寄与されることを念じられ、別府史談会を發起され、その創設にご尽力されました。先生は常に会の運営に心を注がれ、会の進むべき方向も定まり、いよいよこれからという矢先のご逝去であり、先生ご自身はもとより、先生とともにこれから研究を推進していこうとしている会員一同にとつても誠に残念なことであります。

今後とも郷土の研究を深め、先生のご意志にそうべく努力する事をお約束して、先生のご冥福をお祈りいたします。

平成五年十一月